

(令和7年(2025年)秋掲載) 令和6年(2024年度)の学校経営計画及び学校評価 (高校部)

1. 目指す学校像
- 建学の精神である校訓三綱領の
- 『一、履正不畏（りせいふい）：自ら正しいと信ずることを、何ものにも畏れず勇気と責任を持って実践する。
- 二、勤労愛好（きんろうあいこう）：勉学に全力をつくし、人類の文化を継承発展させ、国家社会に貢献する。
- 三、報本反始（ほうほんはんし）：初心にかえり、自分の今日あるのは縁ある人々（ご両親や恩師）のお陰であり、常に感謝と報恩の念を持ち、行動の指針とする。』の訓えをもとに、知性と豊かな人間性を有し、次世代を担える生徒の育成。
2. 中期的(令和7年(2025年度)教育指導 重点目標
- (1) 知育尊重と人間教育
1. 「学びを楽しむ」生徒の育成
2. ティーチングからコーチングへの授業改革
3. 進学指導の充実と進学実績の向上
4. 文武両道の推進・強化クラブの戦績向上
- (2) 創立100周年を迎え、優れた進学校私学履正社として更なる飛躍を目指すため、ニーズに応える信頼づくり
1. 生徒・保護者・中学校・地域からの信頼づくり
- (3) 環境・システムの醸成
1. 心豊かで潤いのある学校生活
2. 生徒主体の学校行事に一新

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和6年(2024年度)度末実施]	学校運営協議会からの意見
【生徒】 ・学校生活は楽しい。 (R.6年(2024年度):81.2% R.5年(2023年度):79.0%) ・授業・探究活動・クラブ活動を通じて学びを楽しんでいる (R.6年(2024年度):80.2% R.5年(2023年度):75.9%) ・行事は、生徒が楽しく参加できるように企画されている。 (R.6年(2024年度):86.6% R.5年(2023年度):79.5%) 【保護者】 ・保護者としてこの学校に子供を通わせて満足している。 (R.6年(2024年度):83.4% R.5年(2023年度):84.4%) ・生徒の悩みや相談を聞いて、速やかに対応してくれる。 (R.6年(2024年度):75.8% R.5年(2023年度):76.6%) 【教職員】 ・教員間の信頼関係のもと、生徒の学校生活向上のため様々な教育的情報交換を積極的に行い、教育活動に活かしている。 (R.6年(2024年度):71.9% R.5年(2023年度):76.1%) ・職員会議をはじめ、学年会議、生指会議、進路会議、又適宜開催する各種会議は、時間的制約がある中でも有効的、且つ効率的に運営されるよう職員は努めている。 (R.6年(2024年度):73.0% R.5年(2023年度):77.6%) 【学校運営全体】 ・生徒と保護者の全体質問（生徒：40問、保護者：38問）に対する肯定的回答比率（四捨五入で7割を肯定目途とする）は、生徒が82.5%、保護者が97.3%と高水準であった。 ・教員による自己評価では、全体質問で44問に対する肯定的回答比率（上記の生徒と保護者の尺度同様7割を肯定の目途とする）は、75.0%であった。	*令和6年(2024年度)教職員による自己評価、及び生徒・保護者による関係者評価に基づき、昨年度と対比しながら総括する。 【学校の満足度について】 生徒では「授業・探究活動・クラブ活動を通じて学びを楽しんでいる」において、80.2%と前年度よりも4.3%上昇し、高水準である。 これは、本校のスローガンである「学びをたのしむ人」を少しずつ実現できているという結果である。 コアタイムである34時間の授業に加え、放課後のゼミやクラブ活動を通して、さまざまな学びの種をまいており、それに対し、生徒それぞれが主体的に探究しながら取り組んでくれている。 今後もより良い授業計画、ゼミの内容改善、クラブ活動の活性化を進め、生徒が「学びをたのしむ」ような仕掛けづくりを推進していく。 【学校行事について】 学校行事が楽しく企画されているかについては、前年度79.5%で今年度は86.6%と+7.1%であり、上昇した。 生徒会が主体となって、様々な意見を出し、学校行事を活性化してはいており、少しずつ「生徒主体」の学校行事とはなっている証拠である。 今後も、生徒たちの意見を聞き、現在の行事を魅力的なものに改訂しながら運営していきたい。 【生徒への個別対応について】 保護者の「生徒の悩みや相談に速やかに対応してくれるか」においては、前年度と同様に75%以上の値であり高い数値を維持している。 現在は生徒・保護者との連絡ツールであるclassiを全校利用しており、今までよりも悩みや相談を教員に対して伝えることへのハードルが下がっている状況にある。「ネット担任制」を導入し、本格的に生徒一人一人の個別最適化を実現していつている。 【教職員間の情報交換と連携について】 教職員の「生徒の学校生活向上のため様々な教育的情報交換を積極的に行っているか」においては、前年度76.1%で今年度は71.9%と-4.2%であり、少し下降した。生徒の情報共有は教育の根幹なので、もっと活性化させる必要がある。個別最適な対応が行えるよう、学年会議や教科会議を強化していく。

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指数	自己評価
(1) 知育尊重と人間教育	1. 進学指導の充実と進学実績の向上 あ) 2 い) 30 う) 38 2. 生徒を集中させる熱意ある教科指導 あ) 19 い) 20 3. 社会性の育成 あ) 21 い) 22	1. あ)昨今の学校教育内容そのものや、教育情勢・教育環境の変化に敏感に反応し、且つ進学校としてのニーズに応える年間教育計画に基づいた授業実施に各教科担当は努めている。 い)生徒に将来の進路に関心を持たせる進路指導(キャリアガイダンス)や教育(学年毎の進路説明会)が適切に行われている。 う)生徒の進路指導において、学年毎の保護者対象の進路説明会や担任による懇談等を通し、保護者と連携を取るよう努めている。 2. あ)教員は授業に対する十分な教材研究・事前準備に努めている。 い)学習内容はクラスのグレード編成に応じて効果的に展開されている。 3. あ)人権教育の観点からも個人情報やその取り扱いについて、平素より機会をとらえ適切な指導に努めている。 い)学内外問わず、他者に迷惑をかけないという観点より社会的モラルやルール、エチケットについて、平素より機会をとらえ適切な指導に努めている。	1. あ)80%以上 い)85%以上 う)90%以上 2. あ)～い)の平均指数85%以上 3. あ)75%以上 い)80%以上	1. あ)昨年 2023 年度は 89.6%で、2024 年度は 81.3%であった。(△) 1つの問題を解くにあたって、思考力・判断力・表現力が必須となった昨今の入試問題に対応すべく、知識の詰め込みだけではなく、解答までの過程を重視した指導を行っている。 い)昨年 2023 年度は 89.6%で、2024 年度は 87.5%であった。(○) 各大学の入学試験において、昨年入試動向や次年度の対策などきめ細かく説明会などを行っている。また、大学の教授を学校に招聘し、高大接続の観点から講演会を実施している。 う)昨年 2023 年度は 94.0%で、2024 年度は 93.8%であった。(◎) 進路指導部やベネッセコーポレーションから、大学進学最新の情報や、各生徒の実態について情報共有を行っている。 2. あ・い)の平均指数は 86.5%【2024 年：85.1%, 2023 年：85.9%】と 85%以上を維持している(○)。あ)No19 の教材研究に工夫を凝らし、い)No21 への効果につなげていきたい。 より高い評価を目指すため、来年度よりグループワークによるアウトプットの機会を増やしていきたい。 3. あ)2024 年度は前年比+0.5%の 78.1%であった(○)。 い)2024 年度は前年比+6.8%の 84.4%であった(○)。 SNS を通じたトラブルを未然に防げるように、個人情報や肖像権についての取り扱いについて指導している。ネットリテラシーの重要性も人権教育を通じて指導している。
(2) 創立100周年を迎え、飛躍するを目指し、新たな挑戦に取り組む。	1. 生徒・保護者・中学校からの信頼づくり あ)24・26・27・28・32・33 い)29・31・33 う)34 2. 地域に信頼される学校づくり あ)11・12	1. 生徒・保護者には次のあ～い)の観点を信頼作りの基盤とする。また、生徒の出身中学校に対しては、う)の観点を信頼作りの基盤とする。 あ)生徒の生活指導・進路指導・欠席過多の場合、組織的に対応する体制を整える。 い)上記あ)に対する指導は、常に保護者と連携を取り学校と家庭の両輪で指導を行う。 う)生徒の転・退学に至るまでの十分な指導と保護者・出身中学校との密な連携を常に心掛ける。 2. あ)の観点では、地域住民に対し、施設・設備の貸し出しや、交流を積極的に図る。	1. あ)の平均指数80%以上 い)の平均指数85%以上 う)の平均指数約 80% 2. あ)の平均指数75%以上	1. あ)の生徒・保護者に対する平均指数は 82.3%と、前年比-4.1%であった(△)。次年度も機能充実に一層努めていく。 い)の本年度平均指数は 85.4%であり、前年比-3.8%であった。学校と家庭との両輪指導の定着が窺われる (○)。また、保護者アンケート 4&17(平均 86.3%)からも信頼度の数字的な検証ができる。 う)の本年度指数は 79.7%であり、前年比-4.0%であった(△)。転学・退学は残念なことであるが、生徒自身の将来を考慮する上で、時には、生徒の健康面などを考慮し、教育的観点より避けられない場合もある。担任や学年が家庭や出身中学校との連携を大切にしている結果であると評価する。 2. あ)2024 年度は 76.6%であり、前年比-0.3%であった。職員間に意識が浸透している(○)。近隣小学生・住民参加型の年 1 回の天体観測会(中学部主催)や、生涯教育では施設貸与の上、指導者も本校職員で貢献していること、また、中高のクラブ活動での試合会場校として貢献している等の実態を、職員が正しく理解し、協力していると評価する。
(3) 環境・システムの醸成	心豊かで潤いのある学校生活 あ)6・7・8 い)9・10 う)17・18	あ)ホームページによる情報公開、学校・学年・学級から保護者への文書による情報提供や授業公開を定期的に行うなど、開かれた学校づくりに努める。 い)危機管理マニュアルを踏まえ、警察・消防や関係機関との連携に努め、適切な校内訓練のシステムを構築する。 う)環境教育の一環として、ゴミの分別・日々の清掃指導の徹底を図る。	あ)の平均指数80%以上 い)の平均指数70%以上 う)の平均指数70%以上	あ)の平均指数は、2024 年度は 82.5%となった。中高とも HP で行事の紹介や取り組みなどを随時更新している。classi の全校導入もあり、開かれた学校づくりが加速度的に充実してきていると感じられる(◎)。 い)の平均指数は、2024 年度は前年比+1.4%の 70.1%であった。(○)。訓練のみではなく、常に生徒の安全を守る為に、災害の多い近年の大きな課題として、さらに学内での体制を整えていかなければならない。 う)の平均指数は、2024 年度は 71.1%であった(△)。公共の施設を、自らの手で、美しく保とうといふ気持ちを平素より常に持つことが肝要である。しかし、トイレ内や教室の破損状況を見ると、上記の意識が薄い生徒もいることが分かる。環境整備の大切さをしっかりと伝えていきたい。